令和３年度中山間「ふるさと支援隊」活動報告書（概要版）

活動テーマ

地域の発展と交流
～皆野町金沢地区における情報交流の工夫を中心に～

皆野町金沢地区　十文字学園女子大学

１　活動目的

地域を学び、地域で学び、地域に活かす教育研究活動の推進。地方の方と協力し、地域活性化につなげること。また、歴史を学ぶ活動の発展、地域のことを外部に発信する活動をすること。

２　活動地域の現状

新型コロナウイルスの影響により活動の回数が制限されるなどの制約があったが、無事新商品開発の手前までたどり着いた。前年度のふるさと支援隊の活動でライブ配信などインターネットを使った活動を試みたが電波が届かなかったため、今年度も全て直接会って活動をした。地域の方は私たちが活動しに来ることをとても嬉しそうにしていた。今年度取り組んでいた新商品開発は完了していないがスムーズに進み、活動終了後に実際に販売することができるのではないかと思う。

一方、新型コロナウイルスの影響や地域の方の体調不良により新商品開発以外の活動が少なくなってしまった。インターネットを介しての活動も難しく、活動に制限が多かった。

３　活動内容

今年度の活動内容はたたらの里加工センターでの新商品開発、紫陽花園や秩父華厳の滝視察、新井義虎さん宅訪問、四方田忠則さんへインタビュー、聞き書き集作成、干し芋づくり見学である。

（加工センターにて商品開発をする様子）

４　成果

① 地域の人々との交流

現地を訪れる度、地域の方々が温かく迎えてくれた。新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染予防のために人と対面で交流することが難しくなっているからこそ、人と対面で交流する温かみや重要性を再認識することができた。

② 現地調査

金沢地区の浦山にあるアジサイ園やカタクリの里、日野沢にある秩父華厳の滝に行き、現地調査を行った。どちらも地域に住む方に案内していただき、それぞれの場所の魅力や地域の方の思いを伺うことができた。前年度までの活動報告書や資料だけでは味わえない皆野町の自然を肌で感じることができた。

（秩父　華厳の滝）

③ インタビュー

四方田さんが経験された金沢地区、皆野町の発展、生活の変化を知ることができた。ご自身の皆野町町議会議員、議長の経験と町政、商業等幅広い視点のお話も聞くことができ、大変勉強になった。四方田さんの仕事への本気、情熱を知ることもできた。

④「金沢たたらの里加工センター」との共同事業である新商品の開発

昨年度まで継続してきた「金沢たたらの里加工センター」との共同事業である新商品の開発について、製品化を目標に新規レシピ開発に取り組み、「たたらの里ケーキ」を開発した。「たたらの里ケーキ」は、フィナンシェのレシピを基に、試作・改善を繰り返し、工夫を加えたケーキである。旧金沢村では、「たたら製鉄」（日本古来の製鉄法）が行われていたと伝えられていることから金沢地区は「たたらの里」と呼ばれており、加工センターの名でも用いられていることに由来し、名付けた。最終完成版では、四方田忠則さんが作られている干しいもとレモンを使用した甘酸っぱいケーキと、皆野町でも手に入るアーモンドきな粉を使用したケーキの2種類の味が楽しめるセットにした。

5　課題

① 紫陽花が白色になっていること

紫陽花園を案内してくださった若林さんの考えによると、冬に塩化カリウムを撒いた影響ではないかというものだ。紫陽花園に向かう途中、車でいくつもの坂を上って来ている方々が結構いた。わざわざ時間をかけてまでも、坂を上ってまでも見に来る方がいらっしゃるという需要を考えると、なるべく早く紫陽花の色を戻すことが大事だと思った。そのためには、白色になった確実な原因を突き止めることが必要だと考える。

② 商品の価格設定が難しいこと

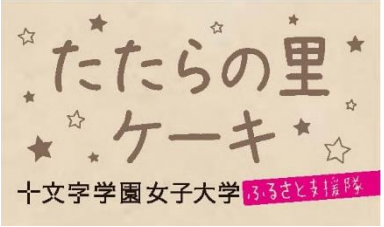
道の駅でパン屋などが低価格で美味しいものを売り始めてしまったが故に、客足がパン屋に向くことが多くなってしまったそうだ。人件費や容器の値段、材料費など諸々考えると難しいのだが、パン屋はパン屋の魅力があるように、加工センターにも加工センターの魅力が沢山あるわけなので、個人営業の店にも客足が伸びるような、そんな工夫を考えなければいけないと思う。

6　次年度以降の計画

○県の支援終了後において、引き続き開発したカリキュラム（平成 30 年度から「総合科目―中山間に学ぶ―」を設置、開設し今日に至る）を本学において試行し、学内資金を活用の上、対象地域を支援する。

〇SNS やパンフレット等を使った情報発信を継続して行う。
〇卒業生による「ふるさと支援隊」支援の枠組みを構築する。
〇対象地域の拡大や他の支援地域の検討により、新規「ふるさと支援隊」創設を検討し、実施したい。

たたらの里加工センター玄関



開発中のパッケージシール

候補だったシール案